

研修報告書No. 2 2

所 属：県外大学病院研修医

研修先：高知県立あき総合病院

馬路村立馬路診療所

今回1月の間、あき総合病院、馬路診療所で地域医療研修をさせていただきました。

私は高知県の出身であり、大学まで高知県で生活していたため、初期研修で他県に出るまでは高知県でしか生活したことがありませんでした。そんな私が初期研修を他県で研修した理由は、自分のやりたいことがあったことと、外から高知県をみてみたいという気持ちがあったからでした。しかし地域医療は是非高知県で研修したいと思っていました。そう思ったきっかけは大学時代に参加した「家庭医道場」でした。名前だけ聞くとどんなものか想像がつかないかもしれませんが、色々な僻地に行って、医療の実情を見て体験し、地域の人と触れ合うことができるものでした。その際に医療の土地的な不便さ、人手不足など問題はありますが、それでもその地域への愛着や感謝の気持ちを忘れない方々と触れ合い、このような地域で働いてみたいとずっと思っていました。そこで今回高知医療再生機構の方にご協力頂き、高知県の東部の医療の中核を担っているあき総合病院に3週間、家庭医道場でも訪れたことがある馬路診療所で1週間の地域医療研修をさせて頂くことになりました。

あき総合病院では主に午前中は20人前後の患者さんの病棟回診を、午後は新患の外来、救急車、往診、病棟業務を行いました。市中肺炎、尿路感染症、糖尿病、インフルエンザウイルス感染症、急性胃腸炎といった一般的な疾患から胃癌、肝臓癌、脳腫瘍などの緩和医療や老衰による看取りまでさまざまな疾患を経験させてもらいました。研修の最後の時期に成人の内科の総復習ができ、知識の整理ができて良い経験となりました。

一方馬路診療所では、午前中に馬路村の見学、外来、血圧測定や採血、午後は魚梁瀬診療所、外来、往診、健康教室などに参加しました。馬路村では喫煙、糖尿病、肥満の割合が高知県の平均より高く、禁煙外来や健康教室を開催し、村全体で一次予防に努めていました。禁煙や肥満解消に成功した人がいると、徐々に村全体に広がっていくのが村ならではと感じました。

実習を総じて感じたことは、高知県の高齢化は思った以上に深刻であることでした。学生の時には実感しなかったですが、県外の状況と比較して90歳代、100歳代の高齢の患者さんが多くみられました。それに伴って独居、介護問題などがどうしても生じてきます。地域の病院では疾患が治癒することがゴールではなく、その後の生活の見通しをたてることまでが必要となってきます。そのためには患者さんの性格、生活状況、家族関係、介護度などさまざまな情報収集が必要であり、その情報共有のため、あき総合病院においても馬路診療所においても看護師、ソーシャルワーカー、理学療法士など他職種にわたるカンファレンスが行われていました。

また地域研修といえば往診というイメージがありましたが、実際に何回か往診に行かせて頂き、そこではご家族の頑張りで介護が成り立っており、患者さんはとてもいい顔で過ごしていたのが印象的でした。24時間の介護、もし何か急変があれば即座に対応できない、近くに病院がないなどご家族の負担はとても大きいと思われませんが、そういったご家族の相談に乗り、サポートしていくのも地域の病院の重要な仕事だと感じました。

今後高知県の医療に従事していく中で、地域の現状は切り離すことができないもので、今回実際に知ることができて貴重な一か月となりました。地域医療研修ができるように配慮してくださった高知医療再生機構の方々、お忙しい中ご指導くださったあき総合病院、馬路診療所のスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。今後恩返しできるよう頑張りたいと思います。